

南海トラフ地震に備えた粘り強い海岸堤防の整備 (静岡県焼津市、吉田町、牧之原市)

事業者：国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所

災害時に効果を発揮した3か年緊急対策の事例



対策名：No.14 全国の海岸堤防等の高潮等に対する緊急対策

事業名：海岸保全施設整備事業（駿河海岸）

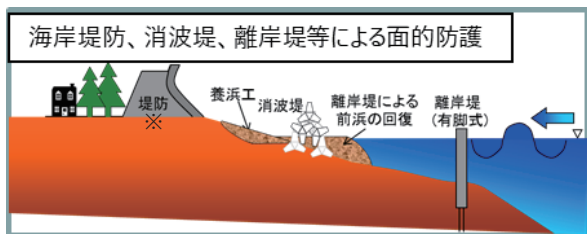
- ポイント**
 - 南海トラフ巨大地震による津波に備え、海岸保全施設を整備
 - 海岸保全施設の整備によって、令和元年東日本台風では整備効果を発現

地域の概要・課題

駿河海岸は、南海トラフ巨大地震による津波の第1波が地震発生後に最短2～4分で到達するため、減災効果を有する粘り強い構造の海岸堤防等の整備を、直轄事業により進めています。

事業の概要

高潮・高波による浸水・越波を防止するため、粘り強い構造の海岸堤防、離岸堤の整備及び養浜を実施しています。



※粘り強い構造の海岸堤防（設計対象を超えた高さの津波に対しても全壊しにくく、全壊に至る時間を少しでも長く延ばすことが可能となる構造上の工夫）

効果

駿河海岸では、令和元年東日本台風（台風第19号）において、観測史上最高の潮位T.P.+1.63m（清水港）と波高8.91m（駿河海岸沖）を記録しました。

これまでの海岸保全施設の整備がなければ、約5,000戸の家屋と約7事業所の工場へ浸水被害の発生が想定されたところ、海岸保全施設の整備によって、一部区間での越波はあったものの、高波被害を防止しました。被害防止の効果は約2,900億円と推定されます。

